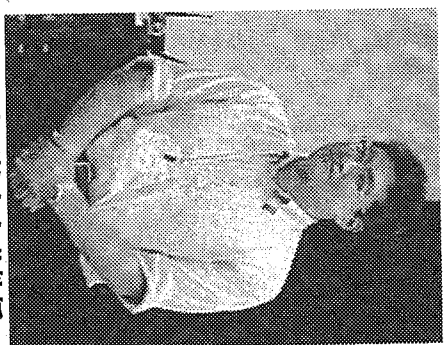


鳴門教育大学= 中学生「エコアクション21」講演会 対象



鳴門教育大学は7月14日、同大附属中学校において、1年生の総合的な学習の時間の1回目として、「平成29年度エコアクション21」講演会を開催した。

この講演会は、鳴門教育大学環境方針である「環境マインドを持った人材の育成」の一環として開催して

田村鳴門教育大准教授

いるものであり、今年度も昨年に引き続き、より若いうちから環境意識を高めることを目的とし、同大附属中学校1年生152名を対象として、田村和之同大准教授を講師に招き、「今、私たちにできること」私たちの生活と「エコ」と題した学習活動を行った。

まず、私たちの毎日の生活に欠かせない水、食料、燃料などが1日1人あたりどれくらい必要であるかからはじまり、それらを使い終わったあとどのゴミ等が、どのように処理されるか、また、焼却炉とダイオキシンとの関係について話された。

講演会終了後のアンケートでは「日本の焼却炉数が世界で一番多いことに驚いた」、「ゴミ問題をわかりやすく学べた」、「今後、ゴミを出す量を少なくしたい」といった感想があり、環境マインドを持った人材の育成が推進された。

香川大学

板谷教授(地域マネジメント研究科)が論文賞

香川大学地域マネジメント研究科板谷和彦教授が7月11日、米国ポートランドで開催されたP I C M E T (Portland International Center for Management of Engineering and Technology) 17 Conferenceにおいて、Brad W. Hosler Outstanding Student Paper Award Nominating Professorを受賞した。

表彰対象となった研究業績は、「Exploring effective factors for the generation of innovative ideas and technologies in functional food R&D」に対する研究指導。

研究では、健康維持に寄与するとして世界的にも成長著しい機能性食品業界をテーマとし、独創的なアイデアを促進するマネジメントを旨として、創造性や偶然の発見(Serendipity)を軸とする斬新なモデルを提案し、機能性食品業界74社の研究者114名から得た調査結果を元にアイデア創出に重要な潜在的因子とその影響の道筋を突き止めた。この研究は、イノベーションを導く様々な



⑤ 板谷教授の創出マネジメントのシームレスな研究を促進する。研究マネジメントの構築に大きく寄与するものとして期待される。

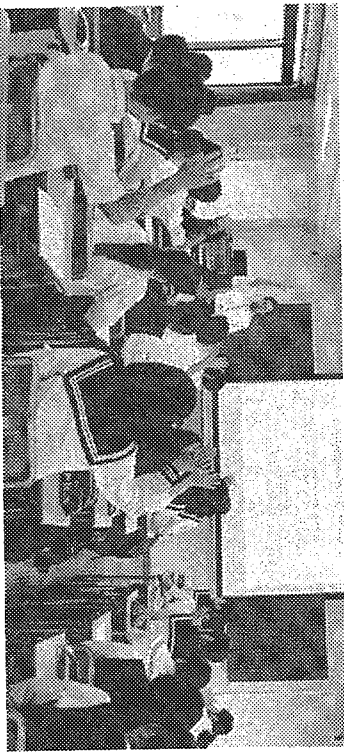
香川大学

高校生対象「夏の体験授業」

香川大学は、7月26日から8月8日にかけて、香川県下の高校生を対象とした体験授業を開催した。教育学部、工学部、農学部、各キャンパスで実施し、延べ88名の参加があった。

この取組は、平成15年に締結した香川県教育委員会との協定に基づき毎年開催しており、一つの学期を通じて大学生と同じ科目を一緒に受講する「公開授業」の一環として実施している。「夏の体験授業」は、オンラインキヤンパスの時期に合わせて開催し、特に準備した授業を高校生に体験してもらい、学問の魅力や大学で学ぶ意義について理解を深めてもらうことを目的としている。

教育学部では、8月8日に、「新しい教職への扉をひらく」というテーマで、「わかりやすい授業方法」を体験する「ユニバーサルデザイン」に参加型講義「義」を体験し、これからの学校教育について考えを深めていく授業を行った。



教育学部の授業を体験する高校生

Mマ望遠鏡の完成に満足げであった。